



知事が行く!
突撃取材! Part2
～三重のひと～

第16回

～鳥羽商船の学生のアイデアが地域を守る～

三重の未来を担う人材を 育てる先生

インタビュー詳細版

(お話いただいた方)

鳥羽商船高等専門学校 制御情報工学科

教授

えざきのぶお
江崎 修央さん

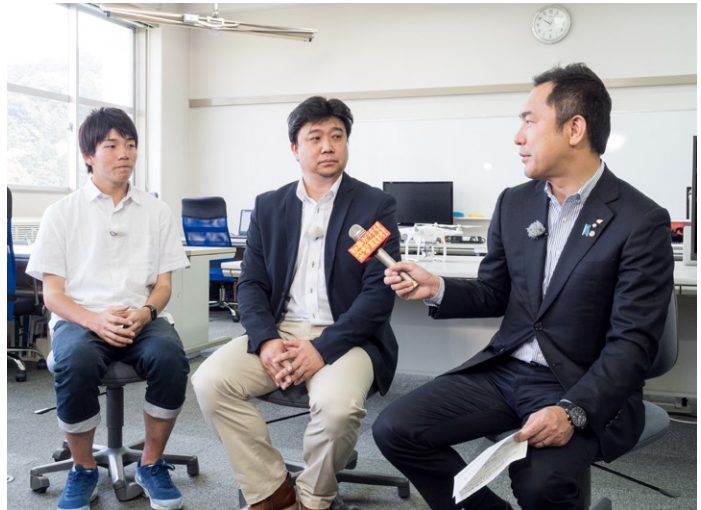
5年生

はっとり かいと
服部 魁人さん

(聞き手)

三重県知事

鈴木 英敬



はっとり かいと 服部 魁人さん 江崎 修央さん

知事: 江崎先生にお伺いします。プログラミングコンテストの強豪校として有名な鳥羽商船ですが、難関なコンテストに出場するにあたって、学生のやりがいや自信を育むために大切にされていることは何ですか。

江崎: 最も大切にしていることは、利用者の視点に立ったシステムを開発することです。例えば、防災減災地図作成システム「みつばちず」の開発にあたっては、自治会の人たちに話を聞き、どのようなニーズがあるのか、コンピュータに関する知識がどの程度あるかなどを十分にヒアリングしたうえで開発を進めました。利用者の皆さんとの対話の中からシステムを開発し成果を出して、地域の人が喜んでいただければ、次の開発を進める原動力になります。そのサイクルをいかに生み出すかに注力して指導しています。

知事: 過去の日本のモノづくりは、既存の技術を使って商品やサービスを作り消費者に提供するというスタイルでした。しかし、今は消費者が必要なものを徹底的に分析し、ニーズに合わせて開発する利用者の視点が大事になっていますからね。では次の質問ですが、コンテストの出場を通して、学生の皆さんに学んでほしいことは何でしょうか。

江崎: ずばり、コミュニケーション能力です。コンピュータというと一人で黙々と作業するというイメージがありますが、開発はチームで進めるのでメンバーや私とのやり取りはもちろ



ドローンの操作を体験させてもらいました。

ん、利用者の方々と、どのように話していくかを学んでほしいと思っています。

使うのは利用者であり、開発は彼らが担うので、学生には常にコミュニケーションを徹底してほしいと伝えています。

知事：なるほど、利用者の視点での研究は、とても大事ですね。それでは服部さんにお伺いします。いろいろなコンテストに出場し、多くの経験をされていると思いますが、今後、どのような研究に取り組みたいですか。



江崎先生の研究室では、利用者の視点に立った開発に取り組んでいます。

服部：自分がやりたい研究をすることも大事だと思いますが、私は地域の方が困っていることを解決し、支援するシステムを開発していきたいと考えています。それによって、より充実した研究ができるのではないかと思います。

知事：今日、見学させてもらった防災減災システムや、学芸会支援システムなどもそうですね。これからも、地域の皆さんにとって役に立つ研究をしていきたいという熱意を感じました。

最後に江崎先生にお聞きします。将来、学生の皆さんに期待されることは何ですか。

江崎：システム開発の仕事は東京にいる必要はありません。ぜひ地元に残って、地域の産業を支えてもらいたいと考えています。オックスフォード大学のオズボーン准教授は、10年から20年のうちに、7割の仕事がコンピューターに置き換えられるだろうと話されています。私たちは、これを逆にとり、コンピューターを活用して地域の皆さんの期待に応える仕組みを作っていくことが大事だと考えています。

知事：具体的には、どのような取り組みですか。

江崎：少子高齢化が進む伊勢志摩地域は、人材不足が深刻な問題になっており、これまで以上のサービスを提供することが難しくなっています。そこでコンピュータを使って、皆さんの期待に応えるサービスを提供する仕組みを作りたいと考えています。

まさに伊勢志摩は、地域の課題解決を実証する最適の地です。学生のみんなには、これからも地域の課題と向き合い、将来的には地元で事業を興し、魅力ある伊勢志摩・三重県を築いてほしいと考えています。私は、そんな人材を育てていきたいと思っています。



地域の防災減災に役立てるため、誰でも簡単にドローンの操縦ができるシステムを開発しました。



限られた人員で獣害対策が行える「まるみえホカクン」。完全自動で動物を捕獲できます。

知事：いいですね。アメリカのシリコンバレーは、ニューヨークでもワシントンでもシカゴでもないですよ。システム開発は事業の特性上、どこでもできるわけですから、ぜひ地元で仕事をしてほしいと思います。鳥羽商船高等専門学校から素晴らしいプログラムの開発者が生まれ、伊勢志摩が日本のシリコンバレーになることを期待しています。僕たちも応援しています。ありがとうございました。

江崎・服部：ありがとうございました。



「素敵な劇しまSHOW」は、演技をする子どもの動きに合わせて背景に映し出されたクジラの絵がどんどん大きくなるなど、さまざまな演出ができます。



※インタビューの内容は、読みやすさの観点から一部要約等を行っています。

※記載内容、写真の無断転載を禁じます。

※内容に関するご意見・お問い合わせは、三重県戦略企画部広聴広報課まで

〒514-8570 三重県津市広明町13

☎ 059・224・2788 FAX 059・224・2032

E-mail koho@pref.mie.jp